京都市
CITY OF KYOTO

＜報道発表資料＞

令和 8 年 11 月 12 日
京都市文化市民局元離宮二条城事務所

「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開

シリーズ寛永行幸 400 年

令和 8 年度冬期「華麗（かれい）なる宴（うたげ）の場 ～〈黒書院（くろしょいん）〉一の間・二の間～」

この度、冬期原画公開「華麗なる宴の場 ～〈黒書院〉一の間・二の間 ～」の開催について詳細が決まりました。今回は、寛永行幸 2 日目の饗宴で、高位の公家たちの宴席が設けられた〈黒書院〉二の間などの障壁画を展示します。



〈黒書院〉二の間障壁画《桜花雉子図》南面（部分）

京都市
CITY OF KYOTO

重要文化財（絵画）二条城二の丸御殿障壁画の大半は、徳川三代将軍家光の時代、寛永（かんえい）3年（1626）の大規模改修に伴い、狩野（かのう）派の絵師たちによって描かれました。元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示収蔵館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開します。

今年度は、「シリーズ寛永行幸 400 年」と題して、今からちょうど 400 年前に行われた寛永行幸で使用された二の丸御殿の部屋の障壁画に焦点を当て、ご紹介します。

【事業概要】

- 会　　期　令和 8 年 11 月 19 日（木）～令和 9 年 1 月 17 日（日）
- 入館時間　午前 9 時～午後 4 時 3 0 分（閉館は午後 4 時 4 5 分）
  ※二条城の入城受付は、午後 4 時まで ※12 月 6 日（日）のみ正午
- 場　　所　元離宮二条城内　二条城障壁画 展示収蔵館
  （〒604-8301 京都府京都市中京区二条城町 541 番地）
  アクセス：地下鉄東西線「二条城前駅」又は JR 京都駅から市バス 9、50 号系統「二条城前」下車すぐ
- 入 館 料　100 円（未就学児無料）
  ※別途入城料が必要。
  ※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の 70 歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方、二条城の入城料、二の丸御殿観覧料及び本丸御殿観覧料がいずれも免除される方の入館料は、不要です。
- 公開作品　〈黒書院〉一の間・二の間障壁画《桜花雉子図（おうかきじず）》、《楼閣山水図（ろうかくさんすいず）》
  （障壁画面数：42 面）
- 主　　催　京都市文化市民局元離宮二条城事務所



〈黒書院〉一の間障壁画《桜花雉子図》東面（部分）



〈黒書院〉二の間障壁画《楼閣山水図》南面（部分）

＜解説と見所について＞

寛永 3 年（1626）、大御所徳川秀忠（1579-1632）と将軍家光（1604-51）が、二条城に後水尾天皇（1596-1680）を招いた、いわゆる「寛永行幸」から、今年は 400 年という節目にあたります。今回の冬期原画公開では、行幸の際に、高位の公家たちの饗応の場として使われた二の丸御殿〈黒書院〉一の間・二の間を華やかに演出した障壁画をご紹介します。

当時、障壁画の画題の序列は、「山水・人物・花鳥」の順とされていましたが、〈黒書院〉一の間・二の間には最高位の「山水」と「花鳥」の絵が組み合わされています。さらに、立体的な盛り上げ胡粉や繊細な切箔・砂子を駆使した装飾的な技法は、この場所が幕府にとって重要な人物との対面所であったことを示します。

寛永行幸の饗宴の際、ここには八条宮智仁親王（1579-1629）をはじめとする宮家の人々や、朝廷の要職者たちが列席しました。幕府側の大名から金銀の台に載った豪華な食事を供される等、彼らは最上級のもてなしを受けます。寛永行幸という一大政治イベントにおいて、〈黒書院〉一の間・二の間の役割は、朝廷と幕府を結びつける「華麗なる宴の場」を創出することにあったといえるでしょう。

行幸の後、寛永 11 年（1634）に家光が上洛した際も、〈黒書院〉は変わらず高位の公家との対面所であり続けました。寛永行幸から 400 年の時を経て守り継がれた障壁画の美しさを、ぜひ会場で体感してください。

＜お問合せ先＞
京都市文化市民局元離宮二条城事務所
電話：０７５－８４１－００９６